

開催日	議題・【報告者】	内容(○報告内容及び・意見交換での主な意見)
令和2年度 第1回 (R2.11.12)	県計画策定に向けて	・県計画は国の「循環器病対策推進基本計画」に沿って策定することを確認
	SSN(埼玉ストロークネットワーク)について 【事務局(医療整備課)】	○基幹病院31病院、連携病院16病院で構成、搬送時間の短縮に繋がっている。 ・SSNにより基礎的な救急医療体制は整っている。医療の更なる均てん化及び充実化を目標に、SSNを基盤としてSSN構成病院の再構築や救急隊員の研修等が必要
	埼玉県脳卒中地域連携パスについて 【埼玉県医師会 丸木親委員】	○発症初期から介護まで関係者が共通言語として活用できるようホームページで様式を公開している。 ・有益なものだが、普及率が低いことが問題。急性期から回復期・慢性期まで一貫した診療提供体制の構築のために脳卒中地域連携パスを県内全域に浸透させるべき。病院独自のパスを使っているところもある。
	課題の整理、今後の検討について	・県民に向けた予防教育等に取り組んでいく必要がある。 ・県医師会、認知症疾患センター、地域リハビリテーションケアサポートセンター等の既存の地域での活動に脳卒中の情報発信を追加していくことも有効。リハビリ専門職の質の向上は各団体で取り組んでいる。 ・発症後の治療は高血圧の重症化予防が大切。高齢者の心房細動も課題
令和3年度 第1回 (R3.5.27)	県計画策定について	○疾病の種類・特徴 ・埼玉県の現状(人口、死亡の状況、健康寿命、年齢調整死亡率等の各分野のデータ) ○2か年で取り組むべき課題 ①正しい知識の普及啓発 ②急性期から回復期・生活期まで一貫した診療提供体制の構築 ○国の基本計画に沿った関係計画の整理、DPCデータ等による診療件数等の各地域の状況の把握
	施策の項目整理について	・予防分野として食塩の摂取量の減少や口腔アセスメントの充実や、それらの患者への啓発・啓蒙活動が重要である。
	第7次地域保健医療計画の見直し案について	○脳卒中の予防と早期発見を進め、発症後の迅速かつ専門的な診療から、病期に応じたリハビリテーション、在宅医療まで、医療サービスが連携・継続して実施される体制の構築を目指す。 ・「課題への対応」や「主な取組」を充実させるよう見直す一方、指標(特定健康診査受診率)については据え置きとする。
令和3年度 第2回 (R3.7.29)	計画の策定について	○骨子案の報告 ○ロジックモデルについて ○埼玉県地域保健医療計画の中間見直しについて ・県全体で推進していくうえで悉皆性が重要 ・第7次地域保健医療計画は上位計画として本計画との整合性の擦り合わせを行う。
	計画骨子案について	○国の基本計画に沿って策定 ・いくつか文言の修正は必要だが、これまでの部会で議論されてきた内容が網羅されている。
	ロジックモデルについて	○脳卒中学会から提案されたロジックモデルを参考資料として掲載 ・県独自のデータ等を落とし込めればなお良いが、現状把握することが可能なデータに絞って適宜修正を加えた上で、掲載可能なものに落とし込むことが重要